

高齢者の緊急通報システムのバッテリー交換で大混乱!?

トラブルのなかった昨年度の方法に戻して

発作などの病気をもつ一人暮らしの高齢者は、ボタンを押せばすぐ消防署に連絡が行く「緊急通報システム」をつけてもらうことができます。2年に一度、バッテリー・電池の交換が必要ですが、そのやり方が突然変わって、高齢者から「なんとかして」の声がたくさん出ています。

昨年度まで・

交換時期が来ると、事業者がバッテリーをもって利用者宅を訪れて交換。代金はNTTの通話料に上乗せして支払い。

今年度からは・

- ① まず利用者が自分で、バッテリーを注文
- ② バッテリーが自宅に送られてくる
- ③ 自分で交換できないときは業者に連絡
- ⑤ 事業者が来て交換

雪だるま式に混乱拡大

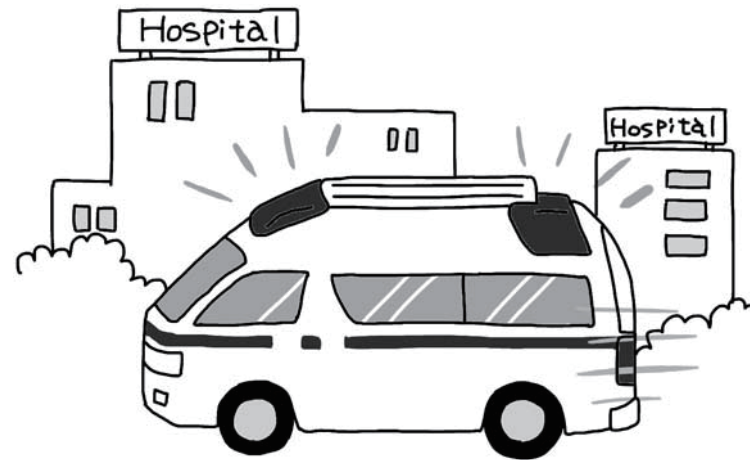
でもそれだけではありませんでした。

- 本体用バッテリーとペンダント用ボタン電池と二つの交換が必要だと知る。

- 本体用バッテリーは116に電話して注文。ボタン電池は何種類もあるので型式のあったものを自分で量販店などで購入。

- 116はつながりにくい。やっとつながったと思ったら、「こちらではない」と断られる。

※緊急通報システムをつけている利用者は359人。今年度中にバッテリー交換が必要な人は170人です。



- やつと正しい注文先（サプライセクター）を教えてもらい注文。

- 料金は電話料金に上乗せして支払うはずが、商品が「代引き」で送られてくる。しかたなしにその場で料金を支払うはめに。

こうした変更は、事前に市とNTTが話し合ってたことにも反したもので、NTT側が一方的に変更したのもありました。結局市もてんやわんや。相談や

苦情もたくさん寄せられました。

村上議員の議会質問

高齢者宅を訪問しているヘルパーさんから話を聞き、早速6月議会で質問しました。

「今回の変更は機械操作に不慣れた高齢者には厳しい。NTTと取り決めたことさえ反故にされている。去年までのやり方に戻すようNTTと話し合うべき」と求め、市もNTTと話し合いを再開しました。高齢者が安心できる仕組みに改善されることを望みます。

固定電話の回線がないと緊急通報システムはつけられません。携帯だけにして固定電話をやめる高齢者も増えています。村上議員は全国の先進自治体を参考に、携帯回線にも対応した緊急システムも加えるよう提案しています。

緊急通報システム機器

緊急通報システム本体



ペンダント型送信機



村上かずしげ通信 24.6.30
発行 日本共産党市議団